

5. 「企業市民活動推進センター」事業

— コンサルテーション、社員のV体験、NPOとのコーディネーション

「企業市民活動推進センター」(Center for Corporate Citizenship, CCC)は、日本生命財団の助成を受けて、1991年に開設。以来、「企業市民」活動（いわゆる、企業の社会貢献活動、CSR活動）の専門推進機関として活動している。

主な機能は、①CSRを含む「企業市民」活動全般のコンサルタントと研究会の開催、②社員・OB等の市民活動支援のための総合的支援・プログラム提供、③NPOと企業(人)のパートナーシップ作りのためのコーディネート、④社会的責任に関するNPO/NGOからの発信を柱に事業を進めている。2010年度は特に①と②の事業の充実・強化に力を注いだ。

1. コンサルテーション事業

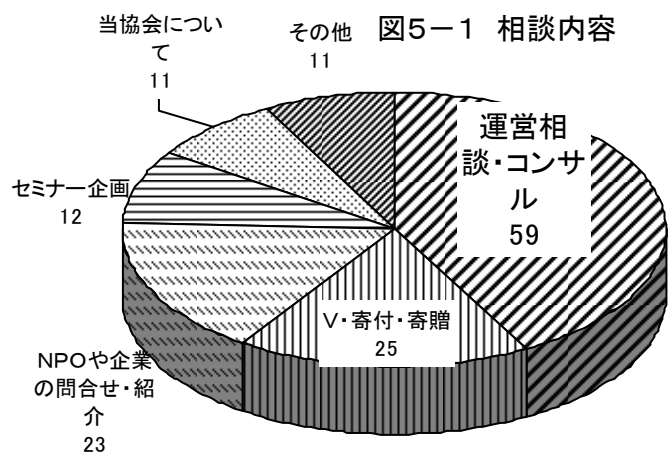
企業市民活動推進センターは、社員に自己実現の機会を提供し、NPOを通じて地域社会を活性化させ、企業市民活動に熱心な企業への社員や地域社会（顧客）の共感を高めるコーディネート機関・ファシリテート機関として、以下のようなニーズにそれぞれ応えている。

（1）企業市民活動推進センターへの相談対応

2010年度にセンターが受けた相談内容を図5-1で示す。相談件数は141件（昨年度91件）となり、昨年度より50件増加した。そのうち119件が企業や労働組合からの相談である。

相談内容は社会貢献事業やCSRに関する運営相談やコンサルティングが最も多く59件にのぼり、これらは企業の社会貢献プログラムの企画作りの受託につながっている。次いで多いのは寄付寄贈の問い合わせ、NPOや企業に関する問合せや紹介依頼となっている。

その他の相談としては、企業や労働組合からのセミナーの企画に関する相談や、企業がボランティア活動や寄付・寄贈に取り組むにあたっての相談、当協会の事業に関する問合せなどがある。



（2）企業市民活動推進のコンサルティングと企画づくりの支援

企業市民活動推進センターは、企業の社会貢献プログラムの企画助言や事務局受託、専門員派遣なども行っている。社員向けボランティア講座受託の他、2010年度に実施したコンサルティング事業は、以下のものがある。

項目	概要
積水ハウス「マッチングプログラム」の助成事務局および「アドバイザー」就任	積水ハウスが創設した従業員と会社の協働参加型社会貢献プログラム「積水ハウスマッチングプログラム」の助成プログラムの事務局を担った。助言を行うアドバイザーに水谷事務局長が就任し、選考作業が行われるプログラム理事会へ派遣した。
大阪ガスグループ「子ども支援市民活動 助成プログラム」の助成事務局	大阪ガスグループが実施する助成プログラム＝子どもたちに関わる市民活動団体が実施する「困難な境遇や障がい等、課題を有する子どもたちに焦点をあてたプロジェクト」の助成事務局を担った。14団体に助成（上限30万円）。
阪急阪神ホールディングスの「未来のゆめ・まち基金」助成事務局の受託	阪急阪神ホールディングスが09年度から開始した「未来のゆめ・まち基金」市民団体助成プログラムの助成事務局を10年度も受託。全体設計や選定事務に協力した。10団体に各50万円を助成。
大阪信用金庫とCSR推進に関する顧問契約	大阪信用金庫のCSR活動を進めるため、CSRに関する全般的な助言を行うとともに、同金庫の情報誌『だいしんNOW』に「ちょっとコラム」を連載。毎月、市民活動に参加するための情報を提供している。
各企業のCSR活動の助言と報告書へのコメント掲載	企業が発行する「CSR報告書」制作の際に、記述に関する助言やコメント掲載に協力した。 ※コメント協力した企業：関西電力(株)、帝人(株)、(株)積水ハウス

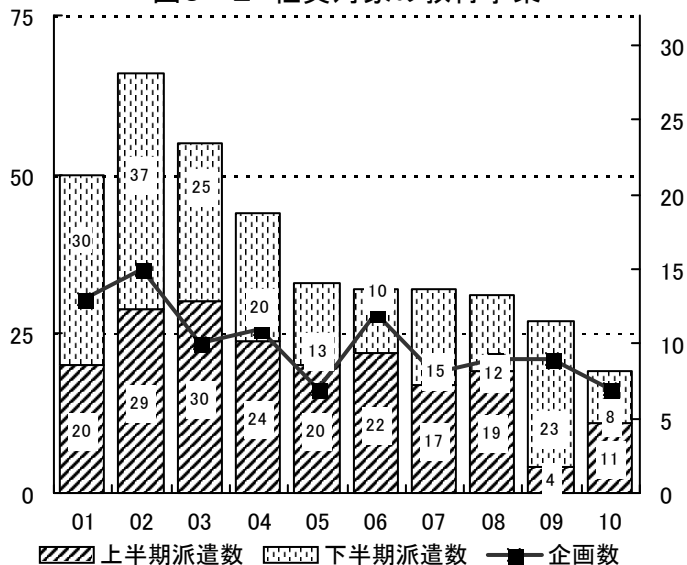
（3）近畿労働金庫と共催で、ボランティアをNPOにマッチング（第1章より再掲）

近畿労働金庫と協力して、勤労者やシニア層を市民活動の現場につなげるプログラム「2010 年度近畿労金NPOパートナーシップ制度」を実施。ボランティア受け入れを申し出たNPO 11 団体のうち9 団体に、活動希望者19 人（前年度9 人）をマッチングした。

近畿労金NPOパートナーシップ制度へのボランティア参加

プログラム数	参加人数	受入れNPO（つないだ人数）
11	19	アジア図書館(2)／関西こども文化協会(2)／高齢者外出介助の会(1)／視覚障害者支援の会クローバー(2)／フェリスモンテ／ワークレッシュ(3)／高槻まごころ(2)／のあつく自然学校／おおさか音楽療法桜(2)／森林ボランティア竹取物語の会(2)／みんなでつくる学校とれぶりんか(3)

図5-2 社員対象の教育事業



2. 教育・研修・研究事業

（1）社員向けボランティア講座の受託開催

2010 年度にセンターが企画・進行全般の委託を受けた講座件数はのべ7 件（09 年度9 件）であった。これに企業や労働組合から講師派遣だけを依頼されたのべ12 件（同18 件）を加えた計19 件（同27 件）の依頼に対して講師を派遣した。

■企業から依頼を受けて実施した社員研修としての「ボランティア体験研修」（第1章より再掲）

プログラム数	参加人数	依頼企業
7	235	オムロン株式会社大阪事業所／キリンググループ労働組合協議会／近畿労働金庫労働組合／日立製作所

（2）「フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム」の開催

会員団体数は42 社（顧問および当協会を含む。09 年度41 社）。のべ参加者数は324 人（協会および講師を含む。前年度は368 人）であった。定例フォーラムは偶数月に開催しており、開催分の内容は以下のとおりである。

＜2010 年度会員団体＞ 38 団体（顧問と当協会を除く）

【新規（3）】(株)シータス&ゼネラルプレス、日本テクノロジーソリューション(株)、日立製作所(株) 関西支社 伊藤ハム(株)、NECシステムテクノロジー(株)、(株)NTTデータ関西、大阪ガス(株)、(社福)大阪市社会福祉協議会、大阪商工信用金庫、(社福)大阪府社会福祉協議会、オムロン(株)、(株)カネカ、(特活) 関西NGO協議会、関西電力(株)、(株)関西マガジンセンター、近畿労働金庫、(株)クボタ、(株)クレアン、(株)神戸製鋼所、三洋電機(株)、(特活)ジャパンプラットフォーム、シャープ(株)、住友生命保険(相)、積水ハウス(株)、ダイキン工業(株)、大同生命保険(株)、(株)高島屋、(特活)トゥギャザー、西日本高速道路(株)、日東電工(株)、(特活)日本NPOセンター、パナソニック(株)、パナソニック電工(株)、阪急阪神ホールディングス(株)、(社福)兵庫県社会福祉協議会ひょうごボランティアプラザ、富士ゼロックス(株)、三井住友海上火災保険(株)、三菱商事(株)

① 定例フォーラム

- ・第13回（2010年4月13日（火）、会場：住友生命保険相互会社 本社5階）参加者：60人（27団体）
テーマ：「生物多様性～政策における生物多様性の位置づけ・民間参画ガイドライン」
発題者：鈴木渉（環境省事前環境局自然環境計画課 生物多様性地球戦略企画室 室長補佐）
- ・第14回（2010年6月8日（火）、会場：梅田スカイビル タワーウエスト）参加者：61人（29団体）
テーマ：「BOPビジネスとは何か？～NGOから見た課題と展望」
発題者：黒田かをり（CSO ネットワーク共同事業責任者）
- ・第15回（2010年8月3日（火）、会場：関西電力株式会社 関電ビルディング）参加者：55人（24団体）
テーマ：「日本に寄付文化を根付かせるには？～企業の社会貢献と市民活動支援の新しい関係」
発題者：鶴尾雅隆（日本ファンドレイジング協会）
- ・第16回（2010年10月12日（火）、会場：大阪ガス株式会社 OMEビル）参加者：65人（25団体）

テーマ：「社会的要請に応える経営と会社の評判管理」

発題者：久新大四郎（偏西風事務所主幹）

- ・第17回（2010年12月14日（火）、会場：パナソニック株式会社 IMPビル）参加者：43人（22団体）

テーマ：「日立建機のCSR活動—モノづくりを活かした社会貢献活動—」

発題者：飯野能久（日立建機株式会社 CSR推進部長 理事）

- ・第18回（2011年2月8日（火）、会場：大阪NPOプラザ）参加者：40人（27団体）

テーマ：「新しい公共と企業セクター」

発題者：金田晃一（武田薬品工業株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 シニアマネージャー）

早瀬昇（大阪ボランティア協会 常任理事）

② フォーラム自主ゼミ【新規】

3つのテーマ（リンクアップ・ジュニア、フィールドワーク、NPOとの協働）を設けてフォーラム参加者の有志で自主ゼミを開催した。

- （1）若手担当者勉強会「リンクアップ・ジュニア」の開催

第52回：2010年4月8日（木）参加者：12人、第53回：2010年5月14日（金）参加者：12人

第54回：2010年7月9日（金）参加者：15人、第55回：2010年11月9日（火）参加者：25人（第2回フィールドワーク合同）

- （2）「フィールドワーク」の開催

第1回：7月20日（火）参加者：17人、第2回：11月9日（火）参加者：25人（第55回リンクジュニアと合同）

- （3）「NPOとの協働」の開催

第1回：7月30日（金）参加者：5人、第2回：9月14日（火）参加者：8人

3. 社会的責任(SR)に関するNPO/NGOからの発信

（1）「社会的責任向上のためのNPO/NGOネットワーク」の組織化と参画

「社会的責任向上のためのNPO/NGOネットワーク」（NNネット）に、当協会から水谷を派遣し、運営に協力。2010年度は『策定に関わったNPOが読み解くISO26000』を発行した他、「安全・安心で持続可能な未来に向けた社会的責任に関する円卓会議」への代表協議者の派遣（早瀬事務局長も総合戦略部会委員に就任）と他のステークホルダーとの調整、ISO26000策定への参画と同国内委員として水谷を派遣した。

（2）「CSRを応援するNPOネット」への参画

当協会、および（特活）環境市民やダイバーシティ研究所が幹事団体を務める「CSRを応援するNPO・市民ネット」では、地球環境基金からの継続助成を受け「Shopping for a Better World 日本版」作成にむけた活動を推進中。その中間報告を兼ねたセミナーを実施した（地球環境基金による助成事業）。

- ・タイトル「買い物で世界を変える」市民目線のCSRフォーラム

・開催日：新潟（会場：コープシティ花園）2010年7月28日（水）参加者：16人

大阪（会場：大阪NPOプラザ）2010年9月1日（水）参加者：55人

東京（会場：総評会館）2010年9月14日（火）参加者：80人

4. 東日本大震災・被災地への支援の取り組み

（1）「相乗りプロジェクト（トラック編）」（必要な物資を届ける）の実施

東日本大震災への物資支援として「相乗りプロジェクト（トラック編）」を実施。積水ハウス、大阪市市民局、大阪市社会福祉協議会との協働で、被災地で必要とする物資の把握、大阪でのネットワークに物資提供を呼びかけ、2箇所に輸送した。

- ① 3月22日（火）仙台の福祉NPOへ（3トン）：医療用具（カテーテルチップ、カットパン、胃ろう栄養ボトルセット）や、紙おむつなど。

- ② 3月25日（金）福島県飯舘村、仙台の医療センター、岩手県宮古の福祉NPOへ（8トン）：ペットボトル1万本、消毒剤、マスクなど。

